

時間割コード	KB8501	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	富塚 祥夫				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法の歴史と統治の基本原理

授業の概要/Course Overview

この授業では、国の最高法規とされる憲法が、通常法律とは異なり、国民を名宛人とするのではなく、国家権力ないしは権力行使担当者を名宛人とし、その権力行使を統制するためのルールであること（これを立憲主義という）、また憲法が採用する権力統制の手段としては、国民の権利保障と権力分立制が基本であり、さらには国民主権原理や平和主義原理も採用される場合があることについて、その意味や具体的内容の理解を主眼とする（ただし、国民の権利保障の具体的内容については第2クォーターの授業に譲る）。立憲主義を理解するためには、憲法というものがどのような意図と歴史を背景にして成立してきたのかを知ることが重要であるため、まずはその問題からはじめて、次に日本における憲法の歴史、そして日本国憲法が定める統治の基本原理の具体的内容を順次検討していく。
--

キーワード/Keyword(s)

立憲主義、法の支配、自然法思想、国体、国民主権、象徴天皇制、権力分立制、議院内閣制、司法権の独立、違憲審査制、平和主義

到達目標/Learning Objectives

憲法が国家権力による権限行使を統制するためのルールであること（立憲主義）、そしてまたその統制手段である国民主権原理、平和主義、権力分立制などの意義と内容を説明できること。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、憲法の精神と役割（教科書2～3頁） 第2回：【授業内容】立憲主義の成立と展開（教科書2～5頁） 第3回：【授業内容】大日本帝国憲法の成立とその内容（教科書6～7頁） 第4回：【授業内容】敗戦と日本国憲法の成立（教科書12～17頁） 第5回：【授業内容】国民主権と象徴天皇制（教科書104～105頁） 第6回：【授業内容】権力分立制（教科書86～87、90～91、94～95頁） 第7回：【授業内容】平和主義（教科書26～39頁） 第8回：【授業内容】憲法における過去と未来―再び立憲主義について（教科書2～3頁）（前半45分） 期末試験 【授業外学習】 （1）各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読み、分からない用語などをあらかじめ調べておくこと。できれば、参考書『憲法の時間』にも目を通しておくことが望ましい。 （2）憲法の理念が実社会の中でどこまで実現されているのかいないのかを知るために、毎日、新聞を読むこと。 （3）法律関係の月刊誌としては、法学セミナー、法律時報、ジュリストなどがあり、図書館へ行けば手に取ることができるので、時間を見つけてそれらの記事にも目を通すこと。

(4) 授業の中で紹介する参考文献にも積極的に目を通すこと。

履修上の注意/Notes

教科書は資料集も兼ねているので、授業には必ず持参すること。遅刻・早退（授業開始後の入退室）は原則として認めない。授業中の私語は絶対にしないこと。逆に質問は大歓迎なので、わからないことは積極的に質問すること。

情報端末の活用

憲法の条文はもとより、現行法令の条文についてはe-Gov法令検索のページで参照できるので、大いに活用すること。
第7回目又は第8回目でアンケートを実施する予定なので、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
A：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方を修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
B：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
C：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにそのしくみについて説明できている。
D：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにそのしくみについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験：100%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新・どうなっている!?日本国憲法：憲法と社会を考える
著者名	播磨信義 [ほか] 編著
出版社	法律文化社
出版年	2016
ISBN	9784589037510
教材費	2300

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法の時間
著者名	井上典之編
出版社	有斐閣
出版年	2016

ISBN	9784641227118
教材費	1900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8502	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	富塚 祥夫				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法による権利保障

授業の概要/Course Overview

日本国憲法が保障する権利について、人身の自由、精神的自由、経済的自由、平等権、社会権の順序で、それぞれの権利が保障されていることの意味と現状の問題点についての授業を行う。憲法による権利保障を見ていく際に重要なのは、誰による権利侵害から権利を保障するのかという視点である。というのは、国民の権利は他の国民によって侵害されることも多々あるからである。しかし、国民による他者の権利侵害は、法律によって統制されるべきものであって、憲法ではない。憲法による権利保障は、国家権力による権利侵害から国民の権利を保障するものであることをしっかり銘記しておくことが重要である。
--

キーワード/Keyword(s)

人権の私人間効力、公共の福祉、罪刑法定主義、適正手続主義、内心の自由、「思想の自由市場」論、検閲の禁止、国家神道、政教分離原則、不合理な区別の禁止、人間たるに値する生活の保障
--

到達目標/Learning Objectives

憲法が国家権力による権限行使を統制するためのルールであることを理解したうえで、日本国憲法が国家権力に対し保障を求めた権利について、その意義および内容と現状の問題点を説明できること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンス、憲法による権利保障の意味（教科書48～49、42～43頁） 第2回：人身の自由（教科書64～65頁） 第3回：精神的自由（1）思想良心の自由（教科書54～55頁） 第4回：精神的自由（2）表現の自由（教科書58～59頁） 第5回：精神的自由（3）信教の自由（教科書56～57頁） 第6回：経済的自由（教科書66～67頁） 第7回：平等権（教科書52～53頁） 第8回：社会権（教科書68～69、72～75頁）（前半45分）、期末試験 【授業外学習】 （1）各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読み、分からない用語などをあらかじめ調べておくこと。できれば、参考書『憲法の時間』にも目を通しておくことが望ましい。 （2）憲法の理念が実社会の中でどこまで実現されているのかいないのかを知るために、毎日、新聞を読むこと。 （3）法律関係の月刊誌としては、法学セミナー、法律時報、ジュリストなどがあり、図書館へ行けば手に取ることができるので、時間を見つけてそれらの記事にも目を通すこと。 （4）授業の中で紹介する参考文献にも積極的に目を通すこと。

履修上の注意/Notes

教科書は資料集も兼ねているので、授業には必ず持参すること。遅刻・早退（授業開始後の入退室）は原則として認めない。授業中の私語は絶対にしないこと。逆に質問は大歓迎なので、わからないことは積極的に質問すること。

情報端末の活用

憲法の条文はもとより、現行法令の条文についてはe-Gov法令検索のページで参照できるので、大いに活用すること。
第7回目又は第8回目でアンケートを実施する予定なので、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
A：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方を修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
B：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
C：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにそのしくみについて説明できている。
D：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにそのしくみについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験：１００％

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新・どうなっている!?日本国憲法：憲法と社会を考える
著者名	播磨信義 [ほか] 編著
出版社	法律文化社
出版年	2016
ISBN	9784589037510
教材費	2300

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法の時間
著者名	井上典之編
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	9784641227118

教材費	1900
-----	------

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8551	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【各クォーター】				

授業題目/Title

ボランティア活動

授業の概要/Course Overview

ボランティア活動を通じて様々な人々と交流することや地域社会に貢献することは、教室の中で授業を受けて得られる知識とは違った新たな知見や価値観の発見につながることでしょう。この授業では、学生が自ら探した受入先でボランティア活動に従事することが主たる内容となります。そして、ボランティア活動中の態様及びボランティア活動の報告内容が評価に値すると判断された学生に対して単位を付与します。
--

キーワード/Keyword(s)

ボランティア、NPO、非営利、地域貢献、社会貢献

到達目標/Learning Objectives

1）ボランティア活動の社会的意義を理解できる。 2）ボランティア活動を通じて主体性・社会性・積極性・協調性およびコミュニケーション力を身につける。 3）ボランティア活動を通じて社会や地域に関心をもち、新たな課題を発見できる。 4）社会や地域における自分の役割について意識できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1）事前ガイダンス ボランティア活動に対する単位の付与を希望する学生は、学期初めに開催する事前ガイダンスに参加すること。事前ガイダンスでは、単位付与までの手続き、ボランティア活動に参加にするに当たっての心構え、保険加入等について説明を行う。この事前ガイダンスに出席していない学生には授業としてのボランティア活動への参加を認めない。
2）ボランティア活動 自分で探したボランティア活動に合計 3 0 時間（1,800分）以上参加する。複数のボランティア活動の合計時間数が 3 0 時間（1,800分）以上であってもよい。
3）ボランティア活動実施報告書の提出 ボランティア活動終了後、ボランティア活動実施報告書（レポート）を作成し提出する。
【授業外学修】 ボランティア活動参加前 1）ボランティア先を自分で探す(自発的)。このため自分で受入先の活動内容について十分に調べる。 2）ボランティア活動に参加する動機やボランティア活動中に意識的に取り組みたいことを明確にしておく。
ボランティア活動中

- 3) ボランティア先のスタッフの一員であることを常に意識する。
- 4) その日のボランティア活動終了後に毎回活動記録をつけることを勧める。
- 5) ボランティア活動中に失敗したことや注意されたことを内省し次の活動に生かす。

履修上の注意/Notes

- 1) ボランティア先での不適切な服装・態度・言動、無断欠席、遅刻は厳に慎むこと。
- 2) 必ずボランティア活動に関する保険に加入すること。
- 3) 書類の提出期限を厳守すること。
- 4) 基盤教育科目においてボランティア活動によって付与する単位の上限は1単位までとする。
- 5) ボランティア活動中の他の授業や期末試験は欠席扱いとし補講・追試験等の特別措置はない。授業のない休業期間中に実施することを推奨する。

情報端末の活用

活用なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の4点について極めて高いレベルで達成されている
 A：到達目標の4点について高いレベル以上で達成されている
 B：到達目標の4点についておおむね以上のレベルで達成されている
 C：到達目標の4点について最低限のレベル以上において達成されている
 D：到達目標の4点のうち1点以上について全く達成されていない

成績の評価方法/Grading

ボランティア活動証明書・評価報告書「40%」とボランティア活動実施報告書（レポート）「60%」で評価する。評価の観点には到達目標に記載した4点である。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：なし
----	--------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8552	ナンバリング	KB-GHS-121-COP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【各クォーター】				

授業題目/Title

インターンシップ実習Ⅰ

授業の概要/Course Overview

インターンシップ（就業体験）受入企業や官公庁を探し、手続きし、実施することを通じて、将来への展望や職業意識を持てるように学びます。実習日誌及び報告書を提出していただきます（詳細内容は受入企業等ごとに異なります）。

キーワード/Keyword(s)

職業観、インターンシップ、キャリア形成、社会人基礎力、地域協創人材

到達目標/Learning Objectives

自分の将来への展望を考える基礎を身に付けること。
インターンシップ（就業体験）を通じて職業意識を持つこと。
何をやりたいのか考え、調べ、手続きし、報告できる力を付けること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス・説明会
各クォーターで事前説明会を行います。場所：キャリアセンター 時間：11：55～（15分程度）
第1クォーター：4/15（水）、第2クォーター：6/17（水）
第3クォーター：9/30（水）、第4クォーター：12/2（水）
※日程の都合がつかない方は、別途ご連絡ください。
2. インターンシップの準備
各自でインターンシップ受入先企業や官公庁を探し、手続きしてください。
キャリアセンターでインターンシップ参加登録をしてください。
（キャリアセンターでもインターンシップ先企業等を紹介しています。）
3. インターンシップ実施
実習30時間（6時間×5日以上）を基本とします。複数企業への実習を合算できます。
（1日単位のインターンシップは除外となります。）
4. 報告
インターンシップ実施後、「実習日誌」「報告書」を提出していただきます。
- 【授業外学修】
（1）全体を通じて学外学修となります。自分のやりたい事を考え、受入先企業等を調べ、受入れ手続きを行い、準備し、実施し、振り返る

学修を求めます。

(2) 職業について業界や企業等を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。

(3) インターンシップを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

【アクティブラーニング】

(1) 受入れ先企業等の指示に従い、仕事体験型、課題解決型、ジョブシャドウ型など主体的に就業体験を行います。

(2) 自らの目的を立て、その課題を実習日誌、報告書で振り返ります。

履修上の注意/Notes

インターンシップ実施期間に応じて、履修するクォーターを選択してください。

第1クォーター：4/9～6/10、及び4/1～4/8

第2クォーター：6/11～8/12、及び8/13～9/28

第3クォーター：9/29～11/30

第4クォーター：12/1～2/14、及び2/15～3/31

実習30時間（6時間×5日以上）を基本に1単位となります。

受入先企業や官公庁を自ら探して手続きする必要があります。

インターンシップ活動中の他の授業・試験は欠席扱いとなり補講・追試験等の特別措置はありません。授業のない休日、休業期間中に実施することを推奨します。履修登録の他にキャリアセンターにてインターンシップ参加登録をしてください。

「履修登録期間」が過ぎてしまった場合、履修を取り止める場合は、各クォーター期間内に共通教育センター窓口にて「追加（削除）履修登録申請書」を受け取り、記入の上、提出してください。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：インターンシップの基本的な知識と考え方を十分に修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

A：インターンシップの基本的な知識と考え方を修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

B：インターンシップの基本的な知識と考え方を概ね修得し、目的に沿う学外学修が経験できている。

C：インターンシップの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、目的に沿う学外学修が経験できている。

D：インターンシップの基本的な知識と考え方が修得できておらず、目的に沿う学外学修が経験できていない。

成績の評価方法/Grading

インターンシップ先を探し、手続きし、実施する状況、「実習日誌」及び「報告書」をもとに成績評価が行われます。特に、参加する本人が設定するインターンシップの目的に沿った実習の成果を評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しません。 適宜資料を配布します。
----	----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ、その他

実務経験のある教員による授業科目

インターンシップ先の受け入れ企業、官公庁等により異なりますが、就業体験を通じて学びます。

実践的教育から構成される授業科目

学外でのインターンシップ（就業体験）を通じて職業意識を持つこと、自分の将来への展望を考える基礎を身に付けることの実践的教育です。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8553	ナンバリング	KB-GHS-121-COP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【各クォーター】				

授業題目/Title

インターンシップ実習Ⅱ

授業の概要/Course Overview

インターンシップ（就業体験）受入企業や官公庁を探し、手続きし、実施することを通じて、将来への展望や職業意識を持てるように学びます。実習日誌及び報告書を提出していただきます（詳細内容は受入企業等ごとに異なります）。

キーワード/Keyword(s)

職業観，インターンシップ，キャリア形成，社会人基礎力，地域協創人材

到達目標/Learning Objectives

自分の将来への展望を考える基礎を身に付けること。 インターンシップ（就業体験）を通じて職業意識を持つこと。 何をやりたいのか考え、調べ、手続きし、報告できる力を付けること。 複数企業、官公庁等又は長期インターンシップを経験し、深く職業意識を持つこと。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

「インターンシップ実習Ⅰ」を履修した方、又は実習60時間（6時間×10日）以上を計画している方が対象となります（実習60時間以上を計画する場合は「インターンシップ実習Ⅰ」と合わせて履修してください）。 1．ガイダンス・説明会 各クォーターで事前説明会を行います。場所：キャリアセンター 時間：11：55～（15分程度） 第1クォーター：4/15（水）、第2クォーター：6/17（水） 第3クォーター：9/30（水）、第4クォーター：12/2（水） ※日程の都合がつかない方は、別途ご連絡ください。 2．インターンシップの準備 各自でインターンシップ受入先企業や官公庁を探し、手続きしてください。 キャリアセンターでインターンシップ参加登録をしてください。 （キャリアセンターでもインターンシップ先企業等を紹介しています。） 3．インターンシップ実施 実習30時間（6時間×5日以上）を基本とします。複数企業への実習を合算できます。 （1日単位のインターンシップは除外となります。） 4．報告

インターンシップ実施後、「実習日誌」「報告書」を提出していただきます。

【授業外学修】

(1) 全体を通じて学外学修となります。自分のやりたい事を考え、受入先企業等を調べ、受入れ手続きを行い、準備し、実施し、振り返る学修を求めます。

(2) 職業について業界や企業等を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。

(3) インターンシップを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

【アクティブラーニング】

(1) 受入れ先企業等の指示に従い、仕事体験型、課題解決型、ジョブシャドウ型など主体的に就業体験を行います。

(2) 自らの目的を立て、その課題を実習日誌、報告書で振り返ります。

履修上の注意/Notes

「インターンシップ実習Ⅰ」を履修した方、又は実習60時間（6時間×10日）以上を計画している方が対象となります（実習60時間以上を計画する場合は「インターンシップ実習Ⅰ」と合わせて履修してください）。

インターンシップ実施期間に応じて、履修するクォーターを選択してください。

第1クォーター：4/9～6/10、及び4/1～4/8

第2クォーター：6/11～8/12、及び8/13～9/28

第3クォーター：9/29～11/30

第4クォーター：12/1～2/14、及び2/15～3/31

実習30時間（6時間×5日以上）を基本に1単位となります。

受入先企業や官公庁を自ら探して手続きする必要があります。

インターンシップ活動中の他の授業・試験は欠席扱いとなり補講・追試験等の特別措置はありません。授業のない休日、休業期間中に実施することを推奨します。履修登録の他にキャリアセンターにてインターンシップ参加登録をしてください。

「履修登録期間」が過ぎてしまった場合、履修を取り止める場合は、各クォーター期間内に共通教育センター窓口にて「追加（削除）履修登録申請書」を受け取り、記入の上、提出してください。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：インターンシップの基本的な知識と考え方を十分に修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

A：インターンシップの基本的な知識と考え方を修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

B：インターンシップの基本的な知識と考え方を概ね修得し、目的に沿う学外学修が経験できている。

C：インターンシップの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、目的に沿う学外学修が経験できている。

D：インターンシップの基本的な知識と考え方が修得できておらず、目的に沿う学外学修が経験できていない。

成績の評価方法/Grading

インターンシップ先を探し、手続きし、実施する状況、「実習日誌」及び「報告書」をもとに成績評価が行われます。特に、参加する本人が設定するインターンシップの目的に沿った実習の成果を評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しません。 適宜資料を配布します。
----	----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ、その他

実務経験のある教員による授業科目

インターンシップ先の受け入れ企業、官公庁等により異なりますが、就業体験を通じて学びます。

実践的教育から構成される授業科目

学外でのインターンシップ（就業体験）を通じて職業意識を持つこと、自分の将来への展望を考える基礎を身に付けることの実践的教育です。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8554	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	加藤 敏弘				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

アスリートの世界～鹿島アントラーズとの提携を通して～

授業の概要/Course Overview

スポーツの魅力に迫り、それを支えるアスリートたちの世界を紹介する。
 アスリートがおかれている現状を把握し、その栄光の陰でさまざまな努力と苦労を重ねている様子を実際のアスリートたちの証言を元にとらえる。
 その上で、アスリートの自覚と責任について考察し、サポーターとしての在り方についても議論する。

キーワード/Keyword(s)

アスリート、競技者、スポーツ報道、サポーター、スポーツマネジメント、コーチング

到達目標/Learning Objectives

新聞やテレビで毎日取り上げられるスポーツについて、その実態をアスリートの立場から考察することができる。
 その上で、日本のスポーツがおかれている現状を正しく理解し、各自のスポーツとの関わりについて主体的に考察することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. スポーツとは何か？（シラバスを用いたガイダンス）（加藤敏弘）
 ○スポーツの語源から明治期に日本にスポーツが流入してきた経緯を辿り、現在の日本のスポーツに対する誤解を探る
 2. 世界のスポーツ観と日本のスポーツの現状（加藤敏弘）
 ○各国の育成年代のスポーツ指導の調査結果を踏まえ、日本のスポーツが抱えている諸問題を理解する。
 3. アスリートをとりまく環境（加藤敏弘）
 4. アスリートの光と陰（土倉幸司）
 5. アスリートの役割とその後（土倉幸司）
 6. サポーターの役割とスポーツマネジメント（土倉幸司）
 ○鹿島サッカースタジアムにて、マーケティングの観点から実際のゲーム運営を探り、アスリートがおかれている環境やサポーターの役割について現地調査を踏まえて理解する。
 7. コーチングの世界（加藤敏弘）
 ○アスリートを支える最新のコーチングの基本を学び、過去に受けてきたスポーツ指導との差異を学ぶ。
 8. 日本のスポーツのこれから（加藤敏弘）
 ○授業全体を踏まえて、日本のスポーツのこれからについて議論し、自分の考えをまとめる。

【授業外学修】
 （1）鹿島アントラーズの戦績を調査し、試合観戦に向けて事前に情報を収集する
 （2）現地調査の結果を小レポートにまとめる。
 （3）日本のスポーツのこれからについて、授業や議論を踏まえて、スポーツニュースやインターネットを通じて情報を収集し、総合レポー

トにまとめる。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第1・2・7・8回は、学内講師による講義。
(2) 第3～6回は、学外施設にて、実地調査を行うフィールドワークである。

履修上の注意/Notes

- (1) 鹿島アントラーズと本学の提携を通して、他種多様なケースを把握するために、学外での授業がある。
(2) 現地での弁当代が必要となる。
(3) バスでの移動中、DVDの視聴と解説を伴う授業があるので遅刻は厳禁。
(4) 研究室：人文社会科学部A棟502、オフィスアワー：前期火5、後期金3

情報端末の活用

なし。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

- ・議論への取り組み：30点／小レポート：30点／総合レポート：40点
・8回目に期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

・株式会社鹿島アントラーズFCスタジアム事業部の土倉幸司氏が、その経歴・経験を活かして、アスリートをめぐるさまざまな今日的な課題について講義し、鹿島アントラーズFCのホームゲームを観戦することによって、コーチングスタッフや運営スタッフの動きやサポーターの役割など、ゲームを支える人々への理解を深める。
--

実践的教育から構成される授業科目

・茨城県立鹿島サッカースタジアムに出向いて、指定管理者制度に基づいて管理・運営を委託されている株式会社鹿島アントラーズFCの担当者から、アスリートをめぐるさまざまな今日的な課題について講義を受け、実際にスタジアム内を見学し、質疑応答を通して、実践的な教育を行う。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8555	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代人権論 I

授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけではなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由
--

到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1講 ガイダンス 第2講 今年の重要な最高裁判所判例を取り上げ、裁判のプロセス、判決の種類、三審制度などの基本的知識を解説する。 第3講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート1) 第4講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート2) 第5講 国民主権と権力分立(パート1) 第6講 国民主権と権力分立(パート2) 第7講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート1) 第8講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート2) 、期末試験(論述) 【授業外学修】 予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるハズである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネージメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。 【アクティブ・ラーニング】
--

毎回の授業で、リアクションペーパーの提出を求める

履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。
上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 穴戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 穴戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

備考	時宜に応じて、レジュメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。
----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8556	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代人権論Ⅱ

授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけではなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由
--

到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1講 基本的人権の基礎付けと分類(パート1) 第2講 基本的人権の基礎付けと分類(パート2) 第3講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート1) 第4講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート2) 第5講 平等原則と新しい人権(パート1) 第6講 平等原則と新しい人権(パート2) 第7講 精神的自由(表現の自由)の優越的地位と、その他の人権の司法審査基準について 第8講 まとめと期末試験(論述)、授業アンケート
【授業外学修】 予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるハズである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習するのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネージメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。
【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める

履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。
上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 穴戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 穴戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

備考	時宜に応じて、レジュメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。
----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8557-1Q	ナンバリング	KB-GHS-121-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次 ～ 4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	青柳 直子, 矢嶋 敬紘, 西川 陽子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

多様性社会に関わるボランティア活動

授業の概要/Course Overview

ボランティア活動を通じて様々な人々と交流することや地域社会に貢献することは、教室の中で授業を受けて得られる知識とは違った新たな知見や価値観の発見につながります。この授業は、障害者支援に関わるボランティア活動について、学生が自ら探し活動に従事することが主たる内容になります。そして、ボランティア活動中の態様及びボランティア活動の報告内容が評価に値すると判断された場合に単位を付与します。

キーワード/Keyword(s)

障害者支援、ボランティア、NPO、非営利、地域貢献、社会貢献、

到達目標/Learning Objectives

1）ボランティア活動の社会的意義について理解できる。 2）ボランティア活動を通じて主体性・社会性・積極性・協調性およびコミュニケーション力を身につける。 3）社会や地域における自分の役割や多様な人との共生について意識できる。 4）ボランティア活動を通じて社会や地域における障害者支援について関心をもち、より広い視野で多様な人を理解することができる。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】 本授業の構成（必須事項）は以下の3つから成る。 （1）事前ガイダンス ボランティア活動に対する単位の付与を希望する学生は、学期初めに開催する事前ガイダンスに必ず参加すること。事前ガイダンスでは、単位付与までの手続き、ボランティア活動に参加にするに当たっての心構え、保険加入等について説明を行う。この事前ガイダンスに出席していない学生には授業としてのボランティア活動への参加を認めない。 （2）ボランティア活動 自分で探した障害支援に関わるボランティア活動に合計30時間（1,800分）以上参加する。複数の障害支援に関わるボランティア活動に参加し、その合計時間数が30時間以上であってもよい。 （3）ボランティア活動実施報告書の提出と事後指導 ボランティア活動終了後、ボランティア活動実施報告書（レポート）を作成し提出する。提出後、報告書に基づき活動の振り返りや体験による成果の確認など、今後のステップアップを視野に入れた事後指導を行う。 【授業外学修】
--

上記授業内容における(2)のボランティア先の選択から実際のボランティア活動の全てと、(3)の実施報告書の作成が授業外学修になる。授業外学修に際しての留意点等は以下の通りである。

◎ ボランティア活動参加前

- 1) ボランティア先を自分で探す際には、自分で受入先の活動内容について十分調べる。ボランティア先の選択に困った場合は、支援先の情報提供など必要に応じて支援するので相談すること。
- 2) ボランティア活動に参加する動機やボランティア活動中に意識的に取り組みたいことを明確にしておく。
- 3) 必ずボランティア活動に関する保険に加入すること。

◎ ボランティア活動中

- 4) ボランティア先のスタッフの一員であることを常に意識し、ボランティア先での不適切な服装・態度・言動、無断欠席、遅刻は厳に慎むこと。
- 5) その日のボランティア活動終了後に毎回活動記録をつけることを勧める。
- 6) ボランティア活動中に失敗したことや注意されたことを内省し次の活動に生かす。

【アクティブラーニング】

ボランティア先の選択から実際のボランティア活動に至るまでの全てが授業外学修であると同時にアクティブラーニングに相当する。アクティブラーニングの学修効果を得るために、上記【授業外学修】における留意点として挙げた内容の実行を心がけること。

履修上の注意/Notes

- 1) 書類の提出期限を厳守すること。
- 2) 基盤教育科目においてボランティア活動によって付与する単位の上限は1単位までとする。
- 3) ボランティア活動中の他の授業や定期試験は欠席扱いとし補講・追試験等の特別措置はない。授業のない休業期間中に実施することを推奨する。
- 4) 活動に要する交通費などの費用については、全て自己負担となる。
- 5) 活動前に「基盤教育科目・人間とコミュニケーション【1 Q】バリアフリー・アクセシビリティ支援入門」(担当教員：矢嶋 敬紘)の授業を履修することを推奨する。

情報端末の活用

- ・実施報告書をはじめ各種必要な提出書類については、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。
- ・事後指導の際には、授業アンケートを実施するのでPCまたはスマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに到達目標1)-4)について十分に説明できている。
- A : ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方を修得し、さらに到達目標1)-4)について適切に説明できている。
- B : ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに到達目標1)-4)について概ね説明できている。
- C : ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらに到達目標1)-4)について最低限説明できている。
- D : ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらに到達目標1)-4)について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

ボランティア活動実施報告書に基づき評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	なし
----	----

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

○

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

臨床心理士の資格を持ち、ボランティアに関わる経験を有する教員等の指導のもと、ボランティアについての実習を行う。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--